

言葉に敏感になろう

「蛮力^{ばん}」を知っていますか。「ハイカラ」をもじって生まれた言葉で、身なりや言葉遣いが粗野^{そや}なことを指します。友達やチームメイトなどの同じ立場の者同士だったら、多少粗野でもそれが逆に親しみを感じるようになるかもしれません。スポーツに取り組むときだったら、やる気や活気をそれで表現できるかもしれません。

しかし、立場が違う人に対しては、それが失礼に当たります。中には、蛮力^{ばん}な言動が見えた時点で、その人に心を閉ざす場合もあります。「こんな人とは関わりたくない」「この人は信用できない」などと思われるかもしれません。人間性が問われる時に使ったら、「礼儀知らずで失礼だ」と印象づいてしまうことでしよう。

今から三年前、私は校長として、北中からこの「蛮力^{ばん}」をなくそうと働きかけました。特に言葉遣いです。「おはようございます」が「あざっす」や「うっす」、「ありがとうございました」が「あしたあ」、「はい」が「うおーい」、このような蛮力^{ばん}な言葉が、相手^{あたい}だれであつても生徒たちの口から生まれていました。

あまりにも幼すぎると思いました。相手や状況を気に留めず、蛮力^{ばん}カラな言葉遣いをする生徒たちを何とかしたい、と考えました。それが生徒たちに生きる力をつけることになり、大人に導く^{あかし}ことになると思いました。特に、統合初年度ということ、新しい仲間と良い関係を築くためにも、言葉や態度の果たす役割は大切でした。当時の生徒や職員は、言葉をTPOに応じて使い分けようと取り組みました。

あれから三年が経とうとしています。生徒や職員の顔ぶれが変わりました。開校当時一年生だった現三年生が、うっすらと覚えていく^{あかし}ぐらいでしょう。先輩たちの努力で高まった言語文化は、今も受け継がれているでしょうか。

今朝、朝の会を巡視するために廊下を歩いていたら、こんなことがありました。担任の「おはよう」の言葉に、生徒たちが声をそろえて一斉にあいさつを返したのでしよう。その中には、はつきりと「あざっす！」と聞こえる声があつたのです。年上の人に返したあいさつには到底思えない「失礼の塊^{かたまり}」のようなあいさつでした。残念なことに、担任もそれをスルーしてしまつたようでした。朝の会の先生の話は、淡々と進んでいたようでした。

私が国語の教師だからいうわけではありません。言語というのは人を助けもするし、人を傷つけもします。人間が作り出した最も力のある文化だと思っています。口から出る言葉、手で書く文字に私がかたわるのは、言語を積極的かつ適切に使って、生活を有意義なものにしてほしいからです。学校という場所は、「言語は自分の勝手を都合で使うものではない」ということを学ぶところだと思えます。言葉に敏感になって下さいね。